

橋爪大三郎

おはようございます。橋爪です。社会学を専門にしています。一回目の対話にも参加して、今回も大変楽しみにしていました。

桜井先生とトルキスターニ先生の、それぞれ興味深いご報告に、簡単にコメントしたいと思います。

桜井先生の報告は、日本に小さいけれどもムスリム・コミュニティが出来かかっているというお話しでした。このムスリム・コミュニティが日本社会に受け入れられていくかどうかは、もう少し時間をかけて見る必要があると思います。

日本社会がどういうものか、私自身の理解を簡単に説明したいと思います。日本は明治維新以降、近代化に際して天皇をシンボルに使いました。「日本人とは何か」という問題を考えるとき、天皇が言及されなかったのは不思議な気がします。もし1945年以前の日本人が、日本人とは何かと聞かれたら、それは天皇を戴く人々であると答えたと思います。天皇は伝統的な存在であることになっていますが、実は明治維新の際に再発見されたものです。それは日本の国民統合の中心であると同時に、宗教的な権威を持っていました。この天皇の宗教的な権威は、一神教を研究してそれを模倣するところから生まれたものだとも考えられます。恐らく、キリスト教ばかりでなく、ユダヤ教やイスラム教の影響もあるのではないかと思います。というのは、天皇が近代化の過程で、日本国民にその行動様式を命令し、それが規範になったからです。軍人に対するものと一般国民に対するものがありますが、どちらもコーランのように、神聖なテキストとして国民の間で読まれたのです。

このことは昨日の討論でもわかるように、日本人には忘れられてしまいました。しかし、日本の社会の中にはまだ生きている。例えば学校について二つ例を挙げれば、「制服」と「給食」があります。「給食」は、みんなに同じメニューが出されて、それを食べなければならないのです。食べ始める時間と食べ終わる時間、食べるスピードも一緒になければならないのです。特に、残してはいけないのです。もちろんポークが出ても食べなければならないでしょう。これは教育の一種であると考えられています。中学・高校になると、「制服」を着せられるのですが、この「制服」についてもいろいろ規則があり、スカートの長さであるとか、ボタンを全部しめなければならないとか、いろいろ細かい規則があります。食事と衣服について細かく規則があって、それを守らなければならないというのは、イスラム法によく似た効果を及ぼすと私は思います。自分が所属する集団の規則に無条件に従うというのが、日本人にとって一種の宗教法のような戒律になっていると思います。

昨日の議論で「日本人は何か」ということが話題になって、その答に日本人は非常に困りました。私はそこで、こういう非常に皮肉な結論に至りました。もし「日本人は何か」がわからなければ、日本人という集団は存在しないはずですが、しかし、日本側の人々は「日本人は何か」を答えられないけれど、それでも、日本人が存在することを全く疑っていないのです。この意味で、「日本」というのは、最大のイデオロギーだと思います。そしてこの日本一「日本」というイデオロギーを作り出したのが明治維新であり、このイデオロギーのもとに日本の近代化はなし遂げられているとも思います。その中身は後で勝手に決めれば良いので、宗教法が具体的に決まっているイスラムとちょうど反対のやり方です。そのルールは、日本人に共通に要求されるんですね。

さて、イスラム・コミュニティが日本社会の一部になるかどうかというのは、イスラム教の子ども達が小学校に行ったときに、給食を食べるように要求させられるか、制服の規則とスカーフを巻く戒律の、どちらを優先させるか。ここを見なければなりません。もし日本の学校がムスリム・コミュニティのルールを尊重するという決断をしたならば、多様性に向かって日本社会を開いていくという選択をしたことになります。そこから本当の対話が始まるのだと思います。

トルキスターニ先生は、日本でとても歓迎されたというエピソードを話してくださいました。これは、日本の伝統的な考え方に則したものだと思います。日本では、神様は外から来るのです。そして歓迎されます。神様は私達とどんなにちがっていても構いません。しかし、もしずっとこの土地に住むつもりならば、日本人となり、我々と同じにならなければならない。次の要求が出てくるのです。日本のイスラム・コミュニティは決して神様ではありません。日本人になるわけです。日本人であって、目に見えて自分達と違う人々、こういう人たちは今まで日本人は明確に受け入れてきませんでした。例えば朝鮮半島の人々、台湾の人々に対し、完全な日本人になるよう要求しました。日本のクリスチャンは、ラマダンもないし、行動としては日本人と全く同じでした。ですから、日本のムスリム・コミュニティが、恐らく初めてのケースになるのではないかと思います。

最後に一つだけ、トルキスターニ先生の提案に賛成の意を表しておきます。文明対話のメディアを作りましょうというご提案です。私はそこに短波放送を是非加えて欲しいと思います。短波放送は、お金がかからない上に地球の裏側にまで届きます。実はデジタル短波放送という技術が最近開発されたのです。このデジタル短波放送は、FM放送並みの音質を持っていると聞いています。もしイスラム諸国が共同して短波ステーションを持つならば、このようなアカデミックな対話を常時発信することが出来ると思います。もちろん、日本側にもこういうものがあれば素晴らしいと思います。

以上です。ありがとうございました。